

冷害に伴ういもち病発生予測技術の高度化に関する研究

(研究期間：平成 12 年～14 年)

任期付研究員：小林 隆 (独立行政法人農業技術研究機構)

総 評 (優れた成果が得られた研究であった)

本研究は、低温と「いもち病」の被害度の関係を解明し、リモートセンシング技術や情報科学的手法を活用することによって、これまで研究されてきた「いもち病」の発生予測手法の高度化を図り、冷害による被害の軽減を通じて水稲生産の安定化と農薬散布に伴う環境負荷の低減に寄与することを目指すものである。

本研究においては、周到なデータ収集を通じて、冷害が引き金となって生じる「いもち病」の発生を未然に防ぐための有用な成果が得られており、当初計画した衛星データの利用は行われていないものの、不確定な気象条件の中での農業の適応策を向上させることに資する成果が得られている点は評価でき、所期の目標は概ね達成されたものと判断できる。今後の課題としては、得られた成果の検証や、個々の成果と従来までの知見との総合的な検証などが上げられるが、こうした点に留意し、本研究の更なる発展が期待される。

また、研究成果がホームページ上でリアルタイムに公開され、多数のアクセスがあるなど実用的に広く活用されていることから、研究成果の情報発信は十分に行われているものと評価できる。

他方、本研究における任期制の活用効果については、大学院において基礎的な発生予測モデルの構築に携わり、リモートセンシング技術にも精通し、自らの能力をより実践的に発揮したいという意欲ある若手研究者を任期付きで採用し、短期間で一定の成果を得ていることから、概ね効果があったものと判断できる。また、所属機関の任期付研究員に対する支援については、施設面での配慮や研究遂行上のアドバイスに加え、様々な事務処理も迅速かつ適切に行われるなど、支援は十分であったと評価できる。

以上により、本研究は、研究目的や内容も比較的明瞭であり、短期間で一定の成果を得るとともに情報発信も十分に行われていることから、総合的に判断して、優れた成果が得られた研究であったと評価できる。

< 総合評価： b >

評価結果

総合 評価	目標 達成度	研究成果			研究 計画	任期制の 活用の効果	所属機関 の支援
		科学的・技術的価値	科学的・技術的波及効果	情報発信			
b	b	b	b	a	b	b	a